

中国山西省囲碁協会との友好対決に参加

九年前に日中友好クラブを立ち上げた、楊英華氏は、山西大学日本語科を卒業し二十数年前に来日、いくつかの大学で中国語、中国文化普及のため、教壇に立つてきました。

この度、彼女の出身校、山西大学の学院長である徐仲安氏に対し、当クラブ囲碁部会と山西大学との友好囲碁対局を申し入れたところ、大歓迎するとの快諾を得ました。じつは徐仲安氏もかつて広島の大学に留学し、囲碁に熱中した時代を経験していました。

日本側のメンバーは、私、宮腰義昭以下鳥谷部達二段、木下英親初段の三名で、団長を承った私は日本棋院普及指導員の肩書きを持ち、段位は六段です。

平成二十三年八月六日朝、山西大学商務学院訪問、先ずその広さに驚かされました。六十六万平方メートルの広大な敷地に管理棟、教育棟、図書館、競技場、招待所（ゲストハウス）等が並び、又大きな池を有する庭園迄整っております。この招待所に於いて最初に徐仲安院長、山西省囲碁協会会長以下幹部、参加選手の出席の下、大歓迎のセレモニーが行われました。ここで我々三名には山西省囲碁協会栄誉会員証書を授

与されました。

午前九時から十二時迄二局、十二時から十五時迄昼食休憩、十五時から十八時迄三局、その後夕食と云うペースで六日、七日の二日間で各八局の対局を消化しました。

朝食、昼食、夕食、囲碁対局、宿泊迄すべてこの招待所にお世話になりました。六階建て市内のホテル並の快適なものでした。但し、夕食時のみならず、昼食も先方関係者と一緒の為、山西省名産の汾酒（日本の焼酎に似た五十度前後の強い酒）で乾杯を薦められ、気分高揚して午後の対局に望むことができました。

丁度大学は夏休みみの為、学生はほとんどいませんでしたが、山西省囲碁協会の会員が沢山おり、中にはプロや院生も相手をしてくれて、手合違いの感もあつたりしましたが、大変丁寧な手所を教わり、すくく勉強になりました。対局結果はともかく、毛沢東語録の「友好第一、勝負は二ノ次」の精神にのっとり日中友好促進の結果は十二分に挙がりました。又、この間、当学院の日本語科三年生の女学生三名を配置して下さり、大変リラックスして対局できたことも印象に残っております。

さて最終日八月八日には「慶祝 国民健康の日」（日本での体育の日）に参加することになりました。これは大変大がかりな行事で体育関係者（体操、太極拳、民謡踊り、その他の団体）の他に智育（囲碁、中国将棋、チェス、その他）で小、中学生等数千名が、この学院内の野外広場に大集合し一斉対局を行なうと云うものです。

開会式には徐仲安院長を始め、各チームの組織関係者も壇上に並び紹介されました。囲碁については北京の中国棋院理事長の劉氏も参加され、又プロ高段者による我々招待客に対する十五面打指導も行なわれました。

この行事の会場は太原市内で毎年変わるのだそうですが、たまたま今回の会場に当たったことで御招待をいただき、大変感激しました。

午前中に行事は無事終了、夕方には市内のレストランで徐仲安院長他幹部

列席の下、送別の宴をしていただきました。席上、再訪の要請を受け、必ず又来る旨約束しました。この要請に応える為、当方のメンバーの日程調整の上多数参加できる様、又実力向上を計りたい。そして日中友好の絆を益々強いものにしていきたいと考えております。

宮腰義昭（多摩川）

編集後記

本紙第三十一号（平成二十一年三月発行）でご紹介した、歴史・時代小説家の安部龍太郎さんが、このたびの第百四十八回直木賞を受賞されました。受賞作は、安土桃山時代に活躍した絵師長谷川等伯の生涯を描いた小説『等伯』で、デビューから二十五年目での受賞となるそうです。おめでとうございます。今後の作品も楽しみに、安部さんの更なる活躍をお祈りしております。

情報紙に対する「意見や感想、または投稿などを事務局までお寄せください。」

事務局 蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七二二一七
(三七三二)四七八五

蒲田西特別出張所管内

人口	男	31,390人
	女	29,028人
	計	60,418人
世帯	33,024世帯	

平成25年2月1日現在

わがまちの顔 短歌と俳句を支えに 小林シゲさん

平成25年3月1日発行

かま返し

第47号

発行 地域力推進蒲田西地区委員会
編集 地域情報紙編集委員会

今回ご紹介する小林シゲさんは安方南町会（多摩川一丁目）にお住まいの今年八十二歳になられる女性の方です。

昭和二十八年御長男をご出産された時の感動と覚悟を詠まれた短歌が婦人雑誌の特選となり、以来六十年近く生活の中で歌を詠み続けて来られました。現在は馬場あき子さんの結社である「かりん」の同人として活躍されています。

その経歴は輝かしいもので、中でも一番感激されたことは、二〇〇四年にイタリアの文学コンクールに「雪のファンタジー」という短歌十首を出品され、それが高い評価を受け日本文芸秀作選として「ラビータ」という本になったことです。同年その作品が選ばれて、スペインの「バルセロナ国際ビエンナーレ」の展覧会（ガウディ記念館）に出品されました。そこでも感動を受け、作品の前で涙したスペインの方がいらしたとの記事が掲載されました。海外の方々にも言葉を紡ぐことで理解し合える



ことを知り感激されたそうです。その時の一首を左に記します。

眼鏡拭く度に思ひぬ憂きことも
かくはすがしく拭れたきもの

また昭和六十年頃から友人のお誘いで俳句も始められ、こちらも数々の入選受賞を重ねられていきます。さらに俳句絵手紙まで描かれるという多才振りで。

七十歳の記念に歌集を出版され「昭和萬葉集」の一人に選ばれるなど、その経歴を記すには紙面が足りず残念に思います。

体調をくずされ現在外出もままならず、入院経験もあると伺いま

した。痛みのある時作歌作句をすることでその痛みを耐えることが出来たとのこと、歌会・吟行も今は参加することが出来ないのでもご自宅での活動となっています。けれどその病の中でも感性の豊かさから生まれる作品がどれもとても暖かで優しさに満ち溢れており、お人柄そのものでした。少女のままの雰囲気に包まれていらつしやることごとく印象的でした。最後に数ある作品の中から二首ご紹介させていただきます。

平成二十年

宮内庁詠進歌 佳作入選

被災地にまづ火が焚かれ輪になつて
掌をかざしつ湯の沸くを待つ

平成二十三年

角川短歌第四回通信歌会にて
(伊藤一彦選)

じゃーねとは別れか否か明日逢える
もう逢えぬかも不思議な言葉

(取材 勝俣、伊藤委員)

地方の伝統芸能にみる 浄瑠璃「神靈矢口の渡」

本年四月二日、中央区銀座四丁目十二番に、世界に誇れる歌舞伎の殿堂として我が国の古典芸能の拠点、新歌舞伎座がオープンする。歌舞伎の人気演目といえば「仮名手本忠臣蔵」「義経千本桜」「白波五人男」等、歌舞伎に興味のない人でも、その名前ぐらいは聞いたことがあるはずで、その歌舞伎演目の一つに「神靈矢口の渡」がある。

浄瑠璃「神靈矢口の渡」

十四世紀（南北朝時代）、武蔵国矢口の渡における、新田義興の謀殺事件を、後に書かれた軍記物「太平記」を下敷きにした浄瑠璃作品で、作者はエレキテルで有名な平賀源内、福内鬼外というペンネームが使われている。「神靈矢口の渡」は明和七年（一七七〇）一月に江戸の外記座で人形浄瑠璃として初めて演じられ、その年の秋には大阪の竹本座でも江戸浄瑠璃として評判を呼んだ。

寛政六年（一七九四）八月には、



豊原国周「神靈矢口の渡」明治10年
「馬込と大田区の歴史を保存する会」所蔵

脚色され歌舞伎として江戸桐座で上演された。天保年間（一八三〇）に、七代目市川團十郎が頓兵衛役を演じ、当たり役となり、さらに人気上昇。明治、大正、昭和と現代まで引き継がれて上演されてきた。

歌舞伎「神靈矢口の渡」

全五段のうち歌舞伎で上演さ

れるのは四段「頓兵衛住家の場」がほとんどである。六郷川、矢口の渡のほとりに渡し守頓兵衛の屋敷がある。頓兵衛は金に目がくらみ、新田義興の乗る船を沈め、報奨金で屋敷を建てた強欲な男であった。

ある夕暮れ、兄義興の敵、頓兵衛屋敷とは知らず、追われる身の新田義興が、京都六条の傾城うてなを伴い一夜の宿を求め、頓兵衛の留守をあずかる一人娘、お舟は美男子、義興に一目惚れし屋敷に上げてしまう。



うてな・義興（垂井 曳山祭り子供歌舞伎）

連れは妹と聞いたお舟は恋心を打ち明け、義興がお舟の肩を抱き寄せた瞬間、不思議な力がはた

らき、二人は気を失い、倒れ込んでしまった。臥せていた、うてなが義興の懐から新田家の旗印を取り出し、掲げると二人は息を吹き返した。



お舟・義興（東員町 松の会こども歌舞伎）
全国子供歌舞伎フェスティバルin小松(石川県小松市)

お舟は、身元の知れた義興を追っ手から逃がそうとするが、日頃から自分の嫁にと付きまとわれていた、下男の六蔵に気づかれてしまう。六蔵は義興を捕え自分の手柄にしようとするが、お舟は体を張って義興を逃がそうとする。

六蔵から知らせを受けた頓兵衛は、羽目板を破って、屋敷に押し入り、座敷めがけて床下から刀を突き刺した。しかし、手傷を受け、声を上げて苦しむのは娘のお舟であった。

瀕死の娘の願いも聞かず、村々への合図の狼煙をあげ、義興のあとを追う頓兵衛。息も絶え絶えながら、捕縛合図の太鼓を打ち、包圍網を解こうとするお舟。阻止しようとする六蔵ともみ合いになり、刀を奪い取り六蔵を刺し、刀の鞘で力尽きるまで太鼓を打ち続ける。

川へ船を漕ぎ出した頓兵衛の前に、突如、義興の亡霊があらわれ、新田家伝来の矢が頓兵衛の首を貫いた。



お舟・頓兵衛（東濃歌舞伎中津川保存会）

地芝居「神靈矢口の渡」
松竹に所属する歌舞伎役者が演じる歌舞伎は、「大歌舞伎」と呼ばれ、現在は上演される劇場も原則的には十五箇所と決められている。江戸時代より官許の芝居小屋

で上演される芝居以外は、「小芝居」と呼ばれ、多くは社寺の境内で演じられたので「宮芝居」「地芝居」などと呼ばれた。今日でも地方の伝統芸能を守り続ける「地芝居」が全国に存在する。



六蔵・お舟（高松 祇園座）

今回の取材は、最近、演目として「神靈矢口の渡」を上演した地芝居・農村歌舞伎・子供歌舞伎の一座を対象とした。そもそも、歌舞伎演目の数はどれほどあるのか。江戸時代に作られた作品は本外題で約百五十、これに幕・場・段物を加えると三百を超える。明治以降の新作歌舞伎が約八十数ある。実に四百に近い演目数である。

「仮名手本忠臣蔵」「義経千本桜」「白波五人男」といった人気作品は毎年のように特定劇場の何処

かで上演されているので、ご存知の方も多はずである。では大歌舞伎での「神靈矢口の渡」公演頻度はどうか。



お舟・頓兵衛（長浜 曳山子ども歌舞伎）
『狸々丸 舟町組』

データによると、戦後から今日まで六十七年間に三十四回、東京歌舞伎座に限ると九回である。全演目数からの割合が多いのか、少ないかは捉え方にもよるが、先にあげた人気演目に比較すると、二十分の一以下の上演数になる。

これに対し、地芝居で「神靈矢口の渡」が演じられる回数は、大歌舞伎をはるかに上回る割合になっている。実に興味深い事実である。

この数年の間に演目として「神靈矢口の渡」を演じた地芝居の一座を紹介する。

- 香川県高松市「祇園座」
- 高知県津野町「高野農村歌舞伎保存会」
- 山口県長門市「俵山女歌舞伎」
- 三重県東員町「松の会こども歌舞伎」
- 滋賀県長浜市「長浜曳山子ども歌舞伎」
- 岐阜県中津川市「東濃歌舞伎中津川保存会」
- 岐阜県垂井町「曳山祭り子供歌舞伎」
- 岐阜県白川町「佐見歌舞伎保存会」
- 岐阜県関市「関市獅子舞保存会」
- 愛知県新城市「作手若芽会」
- 長野県伊那市「中尾歌舞伎保存会」
- 長野県大鹿村「大鹿歌舞伎保存会」
- 埼玉県秩父市「秩父歌舞伎正和会」
- 埼玉県小川町「小川歌舞伎保存会」
- 福島県郡山市「柳橋歌舞伎保存会」
- 東京都港区（本部所在地）「松尾塾子供歌舞伎」

以上、たまたま目にとまり、掲載の了解を得、資料提供を受けた団体名を連ねたが、全てを網羅している訳ではない。

（取材 都築委員）

参考文献

- 歌舞伎手帖 渡辺 保
- 歌舞伎いま・むかし 津川安男
- 歌舞伎の歴史 今尾哲也
- 時代浄瑠璃の世界 上総英郎
- 人形浄瑠璃の歴史 広瀬久也